

## 関門海峡におけるジップライン可能性調査業務委託に係るプロポーザル評価基準

評価項目	評価内容	配点
業務目的の理解	資金支援企業の掘り起こしや事業化の妥当性判断という、本業務の目的を深く理解しているか。  火の山再編整備計画との整合性や、関門エリアの観光客属性・ポテンシャルを的確に捉えているか。	10
調査・分析手法	事業手法やリスク分担等のヒアリングにおいて、参入意欲を高めるためのアプローチ手法が提案されているか。  民間事業者へのヒアリングや収支計画策定において、精度の高い分析手法(感度分析等)が提案されているか。  事業化の可否判断に留まらず、将来の自走性を担保するための課題特定や解決策が提案されているか。  地域経済への波及効果や回遊性向上策について、具体的な検討手法が提案されているか。	30
とりまとめ	事業化の妥当性を判断する手法、実現可能な最適モデルを提案する道筋が示されているか。  民間事業者が参入しやすい条件を特定し、整理できる道筋が示されているか。  利用料以外の収益源について、関門エリアの特性を活かした視点があるか。  事業が持続可能となる損益分岐点を数値で明確に示すシミュレーション能力があるか。	30
独自提案	その他、本業務の成果をより効果的なものにする提案や工夫が認められるか。	10
実施体制	業務運営を円滑かつ効果的に実施できる体制となっているか。  業務完了までを見据え、適正なスケジュールが設定されているか。	10
業務実績	同種又は類似業務の実績を十分に有しているか。	5
費用対効果	見積価格の妥当性及び費用に見合った効果的な提案内容となっているか。	5
合計		100